筑波医療科学 Tsukuba Journal of Medical Science 2018; 14(1): 7-8

2017 年台湾サマースクールの報告

国際医療科学主専攻　3 年　井上能考

台湾サマースクールに医療科学類から 3 名（国際医療科学主専攻 3 年の井上能考さん、藤野三法さん、中田慎也さん）が参加しました。井上さんから体験談が届きましたので報告します。

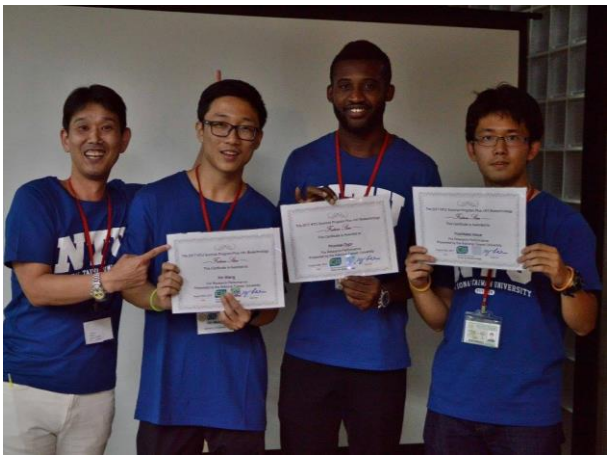
私は 2017/8/13 から 8/26 までの期間、国立台湾大学におけるサマースクールプログラムに参加しました。本来、フロンティア医科学専攻の学生に対するプログラムでしたが、参加枠に空きが出て、学群生にも案内が来ていました。これまで幾度となく留学生との交流プログラムがありましたが、色々と理由をつけて避けて来ましたが、「研究の分野に進みたい」という自分の夢に向かって行く中で、国際交流は今後不可欠になると考え、医療科学類の学生向けのプログラムより長い期間の交流を行うこのプログラムへの参加を決めました。

日本から出国する前は向こうでお世話になる TA の方どころか、一緒に行くフロンティア医科学専攻の方々すら人となりがよくわからず、不安がありました。しかしその心配は杞憂に終わりました。TA をしてくれた国立台湾大学の学生はプログラム参加者が台湾を楽しむために毎日のようにナイトマーケットや食堂に連れて行ってくださったり、相談に乗ってくれたりととても親切に対応してくださりました。また、自分が参加した研究室でも研究や実験についての質問に答えてくださることはもちろん、昼食や研究室のメンバーの送別会に誘っていただくなどまだまだ研究や実験慣れしていない自分を支えていただきました。また、最終日の発表の資料作りの際も TA と議論を重ね、最終的に小さいものですが賞をいただくことができました。賞を取った後に TA が連れて行ってくれた送別会会場の屋上から見た景色は今でも覚えています。

今回のプログラムの参加を通して、痛感したことがあります。それは自分の語学力の範囲が狭いということです。とある台湾大学の学生が会話の中で「中国語と英語の他に、日本語の勉強をして今フランス語の勉強をしている」と答えました。日

本ではあまり当たり前ではないと思いますが、他の国で勉強をしている同世代の学生が二ヶ国語だけでなく三ヶ国語以上習得していると聞き、『日本語以外の言語の重要性』と『国内だけでなく世界に向けても視野を持つことの重要性』を痛感しました。また、そのような意識の違いを突きつけられた一方、手前味噌ではありますが良かったなと思うこともありました。それは『日本の文化について』を台湾の学生に話すことができたということです。日本では当たり前なことでも海外ではそうでないことというのは、日本が島国ということもあり、数多くあります。『なぜ日本の交通は右側通行なのか』や『土用の丑の日になぜうなぎを食べるのか』などといった『日本の文化について』の質問について答えることができたのは自信につながりましたし、研究だけでなく日常会話を英語で話すという良い経験になりました。しかし、もっと良い英語での表現を覚える必要があるなと反省する一件でもありました。

今回のサマープログラムでは観光では得られない経験や会うことのなかった新たな友人を得ることができました。この経験をもとにより一層研究に励むとともに、今回できた友人たちとの縁を大切にするため、このようなプログラムに参加するのか観光なのかはわかりませんが台湾に再度行き、より成長した自分の姿を見せることができればと思います。



筑波医療科学　第 14 巻　第 1 号	
編集	筑波医療科学　編集委員会 磯辺智範　二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類
	〒305－8575 茨城県つくば市天王台 1－1－1
発行日	2018 年 3 月 30 日